

青森県日本海沖合に生息する深海性バイ類

須川人志

はじめに

青森県日本海沖合海域では沖合底びき網漁業及びベニズワイガニやエビ類を漁獲対象としたかご漁業が行われており、潜砂性の巻貝が僅かであるが混獲されている状況にある。

今回の調査は未利用資源の有効活用を考える判断材料として、混獲されている深海性のバイ類の種類を査定することを目的に実施した。

材料と方法

2001年6月に深浦町久六島周辺の水深300～400メートル付近でえびかご漁業で混獲され、岩崎村沢辺漁港に水揚げされた2種類の巻貝の種を査定した。なお、サンプルは市場に水揚げされた貝類を用いており、生息環境等は聞き取り調査で確認した。

結果

青森県周辺海域の深海性バイ類はエゾバイ科の動物が主であり、今回調べた巻貝もエゾバイ科のアニワバイ *Buccinum aniwantum* (Dall,1907)及びチヂミエゾボラ *Neptunea constricta* (Dall,1907)であった。

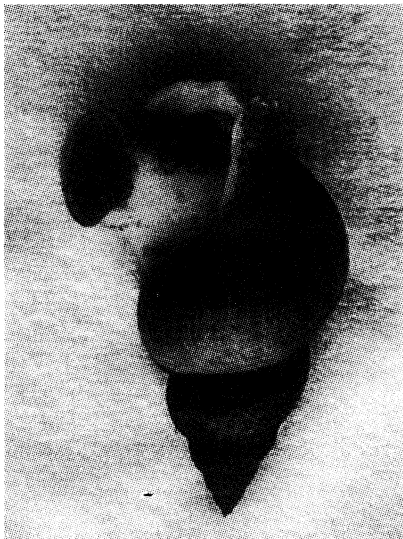


写真1 アニワバイ



写真2 チヂミエゾボラ

観察したサンプルは主として殻高100mmを超える親貝であり外部形態を表1に示した。

表1 外部形態測定値				単位：mm & g
サンプル No.	殻高	殻長	全重量	備考
アニワバイ	1	141.4	74.5	220.0 へタ(なし)
	2	132.1	70.5	肉(なし) へタ(なし)
	3	124.1	69.2	125.0 へタ(34.5 × 21.7)
	4	122.4	61.5	150.0 へタ(39.2 × 24.9)
	5	101.6	55.2	75.0 へタ(29.5 × 19.5)
	6	60.8	36.1	25.0 へタ(18.3 × 12.2)
チヂミエゾボラ	1	148.0	63.5	120.5 へタ(38.1 × 22.5)
	2	138.6	61.2	131.1 へタ(42.9 × 24.5)

考察

青森県日本海沖合の浅海域にはバイ及びモスソガイの生息が確認されており、資源が豊富な時はかご漁業等で利用した時代もあった。一方、深海性のバイ類は深い、冷たく、暗い環境の中で生息しており成長・産卵生態等の知見が極端に少なくまた、価格が安いこともあって、漁業資源としては魅力がないため利用していない状態が続いている。

今回確認したアニワバイ及びチヂミエゾボラも価格の安い貝類であり、貝殻が壊れやすい巻貝であるため商品イメージが悪く、新しい漁業の対象にはなり得ない種類であると考えられた。

文献

奥谷喬司・田川 勝・堀川博史 (1988) 日本陸棚周辺の貝類 (復足綱篇)、日本水産資源保護協会 (東京)、86-164

奥谷喬司 (2000) 日本近海産貝類図鑑、東海大学出版会、452-499